

いつもお世話になっております。今回は全国段ボールセミナーにご来場されましたお客様向けに、明昌がこれまで発行してきたDMの中で、「コスト」「安全面」「SDGs」について詳しく書かれた厳選4枚のDMを集約しました。今の時代だからこそ取り組むべき内容が沢山詰まっておりますので、ぜひとも一度ご参照いただき、段ボール業界の発展に役立つきっかけになればと、明昌一同心より願っております！

困ってからでは遅い！ロス削減はできませんよ！

資材コストが高騰している中、経費削減を迫られる工場が増えてきています。

経費削減する上で、従来使ってきた洗浄剤を安価なものに変えるお客様も増えてきているのも事実です。

でも、その結果、印刷ロスが増えたり、インキ回収が遅くなったり、回収率が下がったり…と良い結果を聞いていません。日常消費する資材をいかに無駄遣いしないか。上手に運用するか。もしかしたら、目先の経費削減が結果としてコストアップの原因になっている可能性もありますよ！

コストアップになる原因とは？

まず考え方として『経費削減＝無駄遣いを防ぐ』としてみましょ。もちろん、安いものに変えることも経費削減に繋がるのですが、上記のように不具合に繋がるリスクもあるということです。

つまり、『修理費用がかかっているかも？』『故障しやすい環境になっているかも？』と想像して頂きたいのです。無駄遣いを防ぐためには、『困らない、ロスが出ない環境にする』取り組みが必要です。

経費削減したい！

日常消費する資材
(例えばインキ・シート)
をいかに抑えるか？

ロスを出さない取り組み。
短時間に出来る工夫。
環境改善&意識改革！

例えば…

シートロスを予防する

予防策

- ・ガムピッチ汚れの除去
- ・熱板やガイドローラーの汚れの除去



コルファインEXで
簡単清掃して解消！



かんばろう！

インキ使用量を抑える

予防策

- ・インキコントロール
- ・インキの回収率UP



日々の循環洗浄と
インキ攪拌で解消！

簡単に、短時間に効果的に出来ることを継続すれば、ロス削減に！

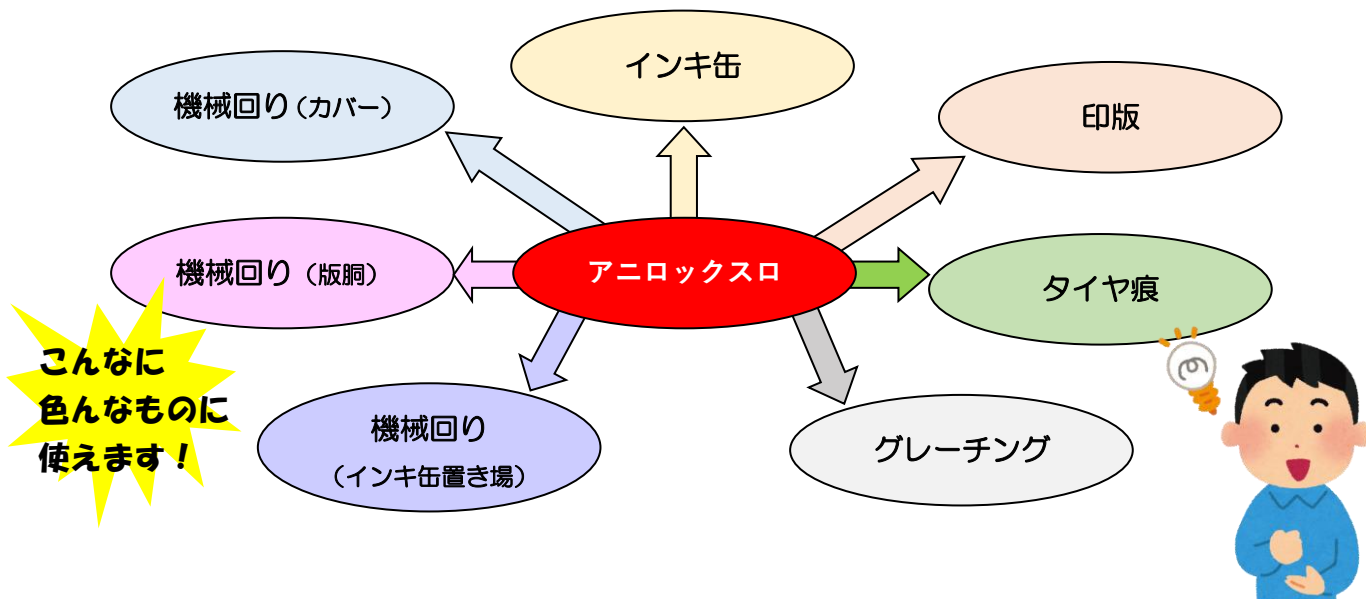
更にコストダウンする秘訣をご紹介します！

オクセルはアニロックスロール洗浄だけじゃ、もったいないんです！



オクセル洗浄剤の中でも『濃縮タイプ』があります。これはオクセルシリーズの中で『最も濃い』タイプになります。もちろんアニロックスロールを効果的に洗うために開発されたシリーズで、1か月間繰り返し同じ洗浄剤を循環できるものになっています。アニロックスロールを効果的に洗える期間としては1か月を明示しているのですが、「これだけではもったいない！」と我々は思っています。アニロックスロール用に1か月間継続使用した後、絶対に捨てないでください！他のものにリユースしましょう！

どんな用途に使えるのか、ご紹介していきます。



『オクセルは価格が高いから』というお声を耳にしますが、それは効果的に使えていないかもしれません！

オクセル洗浄剤を効果的に使うことでSDGsの取り組みにも繋がります。

アニロックスロールで1か月間使用したものは、捨てずに機械周辺の洗浄やインキ缶洗浄、グレーチング、タイヤ痕（度合いによります）にそのまま使用できます。また5倍以上に希釈すれば印版洗浄にも使えます。

『真っ黒になった洗浄剤を再利用するのは、ちょっと抵抗がある』なんて言わずに、SDGsの精神で最後まで無駄なく使ってください！

きっと、オクセルの実力を実感して頂けますし、確実に経費削減に繋がります！

その上、「色んなものに使える」ということは、「洗う物によって洗浄剤を変えなくていい！」ということになり、SDS管理やリスクアセスメントなども楽になります！

オクセル洗浄剤でコストダウンしましょう！

更に更に！コストダウンする秘訣をご紹介！

インキ原単位の低減には、インキ攪拌は必須条件です！

「インキディスペンサーで作っているから…。」

「高希釈タイプのインキを使っているから…。」

インキの成分バランスは本当に大丈夫でしょうか？

インキの組成について、もう少し触れてみましょう。

WOW!

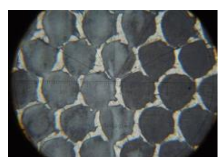


そもそも…フレキシインキとは？

顔料とビヒクル（樹脂で、顔料を分散して印刷素材に転移、定着させる働きがあります。）、添加物（消泡剤など）の混合によって作られています。全てが混ざり合うことによって、発色・定着性（乾燥性など）が得られるのですが、インキは、静置すると沈殿し、チキソトロピック（ゲルをかきまぜると流動性のゾルに変わり、放置しておくとも再びゲルに戻る性質。）を起こします。これは、常時の一定の攪拌をすることによって、簡易にそれらの作用を防ぐことができます。また、フレキシインキには、泡立ちを防ぐ消泡剤が混入されていますが、分散してしまうと、その作用は低減し、泡立ちに繋がります。

弊社の調査では、冬季の夕方に調整したインキ粘度は、12時間後には分離し、およそ3～4秒も上昇することが確認されております。よって、8秒設定で調整されたインキであっても、使用する前にインキ粘度を確認し、調整することが重要です。

その上、印刷ハが悪いと…



目詰まりしている状態
インキ粘度8秒



右の色まで近づけるためには…



インキ粘度を上げる

こんなふうに、粘度を上げたり、原液を足したりしていませんか？

濃度アップしても結果として…

インキの使用量増加⇒原単位悪化

インキ飛散の増加⇒印刷機周辺の汚れ

印版のインキが取れにくくなる⇒印版の劣化、印刷不良

インキ回収が遅くなる⇒時間のロス

全くいいことが無い！



この負のスパイラルから脱出しましょう！

まず、日常やっていたきたいこと！

まずは『日常洗浄』です。目詰まり対策には必須！オクセル洗浄剤で毎日10分！
次に、『インキコントロール』です！
インキの成分が分散された状態をキープすることで、成分状態が安定するだけでなく、
アニロックスロールの目詰まり改善にも繋がります。



インキ攪拌には…MIXスパイラルが解決します！

導入頂いたお客様から導入後1年経過後のインキ原単位を教えてくださいました。

印刷機1台（3色機チャンバータイプ）で検証
インキ：高濃度タイプ

この条件で、導入前と比較して**年間-0.135!**

高濃度タイプのインキであることを考慮しても、**なんと5%ダウン**です！
この差は大きいと思いませんか？



チャンバータイプのような高速機では、インキのホイップ状の泡立ち（あげっぱなしの墨など）によって、チャンバー内部のインキセンサーが誤作動して、十分なインキ供給が出来ていない状態によって、かすれなどの印刷不良が起こる可能性があります。
インキ缶に据え置きして、常時攪拌すれば泡立ち防止に繋がります！

別のお客様では、こんな結果も！

『今までインキ缶の底に沈殿していたインキは捨てるか、残インキにしていたけど、MIX スパイラルを使うようになって、インキ原単位が年間15%も低減した！』

年間15%！すくないですか？

白顔料は墨インキ以外の色インキに入っていますから、
確実に沈殿しています。これをしっかりと混ぜて使う
ことでインキ原単位は確実に下がります！

「棒で混ぜているから」「電動のハンドドリルで混ぜているから」
というお声も多数お聞きします。

しっかりと攪拌するには、**10秒程度では無理です！散らしているだけです！**

MIX スパイラルは、エアツールですので、エアに接続してインキ容器にセットするだけです。

白インキで60秒程度、その他30秒程度でしっかりと混ぜられます。ハンドドリルだと、倍程度の時間攪拌していなければ混ぜられません！

MIX スパイラルは1日8時間の継続使用が可能ですから、墨ユニットなどに常時使って頂けます。

PP缶用と一斗缶用、タンク用にも対応できるオプションもあります。糊の攪拌にもお勧めですよ！



フレキシ印刷と共に70年 ~明日を見つめて 明日を拓く~



明昌株式会社

<http://www.meisho-c.co.jp>

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島1-14-10(阪急電車・南方駅から徒歩1分)

TEL:06-6304-8340 FAX:06-6305-6788 E-mail:contact@meisho-c.co.jp

